



明峰

令和8年8月24日 ※今日からの1週間は、長かった休みからのリハビリ期間と位置づけてみましょうかね。とは言え、生徒は明日から「実力テスト」でした…。頑張れ明峰生!!

第 11 号

校長 岡野利男

～ 8月9日 平和学習会から ～

今年の「8月9日登校日」は、文化会館中ホールをお借りして平和学習会に取り組みました。その内容は大きく次の3つです。

- ①平和についてのパネルディスカッション
- ②玉城ちはるさんによる講演会：「命の参観日」
- ③黙祷、平和宣言、千羽鶴贈呈 等

私は最後の挨拶の中で、「贅沢な時間だった」という言葉を口にしました。涼しく・美しいホールで、しっかりと聴き・感じ・考えたその手応え、玉城さんの素晴らしい生き様に触れた感動、それぞれの生徒の中に、大きな余韻が残っていることがひしひしと伝わってきたからです。

①のパネルディスカッションは、明峰生の今後の学びに大きな刺激を与えるものとなりました。パネラーを務めた1年中島和子さん、2年江崎里依沙さん、3年今里瞭太さん。その発言の一つ一つに「学びを通して獲得した平和に対する考え」が確立されていることが伝わりました。同じくパネラーをお願いしたシンガーソングライター玉城ちはるさん、明教寺住職の片山量海さんからの鋭い質問に臆することなく、堂々と答える姿に感激した生徒も少なくなかったようです。(事後アンケートから分かりました。) 勿論、玉城さん、片山さん、そして進行役の久保教頭先生の【大人としての考えや言葉、中学生への接し方】が素敵だったことは言うまでもありません。

②の玉城さんの講演会は、まさに「圧巻」の一言でした。「命」「諍い」「戦争」「核」といった重く大きなテーマについて、生徒一人一人が「自分ごと」として捉えることが

できるよう、ユーモアを交えながら、でも、心が震えるエピソードを届けながら、そして聴衆一人一人がしっか

りと考えられるよう、お話と歌とを組み合わせながらの講演でした。まずは、お話の前半部から特に印象深いものをいくつか紹介します。

自分とは違う人を排除しないで、どう共に生きていくかを大切なテーマとしていること。

誰しもが、いつ誰をどうやって侮辱しているかわからない。「傷つけてしまっていたら教えてね」の心持が大切。

私ね、あなたのことが大好き。でも、全部分かってあげられるわけじゃない。だから“あなたのことを教えてくれてありがとう”“分かってあげられなくてごめんね”“でも、あなたのことが大好き”



そういったお話を展開されると共に、素敵な歌を響かせてくださった玉城さん。講演の最後をこのような話で締めくくられました。

知ること、経験することはとても大切。知っていないと動くことはできない。「自ら動き出せる人」であってほしいな。そのためにも【言語化】することを意識すること。【相談できる能力】を大切にすること。相談は絶対に悪いことじゃない。お勉強ができることと同じくらい必要な能力ということ覚えておいてください。

後日、生徒全員の感想用紙に目を通したところ、大変嬉しい2つの傾向が読み取れましたので、そのことを紹介して、今号の終わりにします。

〈傾向1〉 平和や命の大切さに思いを馳せたことは同じでも、どんな内容に心を奪われたかは、実に“多様”だったこと。それこそ、生徒全員の感想をつなげれば、あの日の再現となる程、それぞれが感じたことが多様であったこと。

〈傾向2〉 1年生の記述より2年生が、2年生の記述より3年生が質的・量的に立派であったこと。ほぼ全員がきちんと感想を綴っていました。3年生の心の成長をととても嬉しく思います。

